会　議　録

会議名	第 2 回　みよし市総合計画審議会　会議録
日　時	平成 26 年 2 月 26 日（水）　午前 10 時から午前 11 時 30 分まで
場　所	みよし市役所　6 階　601 会議室
出席者 （敬称略）	堀田友三郎、阿部和俊、出原繁男、天石惇郎、松浦八重子、清田由雅、村上雅則、 鳥居鐐一、梅川小夜子、百石美祈、高鶴恵美、新谷千晶、山本哲之、高橋真、伊豆原浩二、 塚崎法子、平山啓子、鈴木文生、三宅章介、新美修（敬称略） （事務局） 小野田市長、小野田副市長、鈴木政策推進部長、藤根政策推進部次長 企画政策課：柴田課長、柴田副主幹、芳村主査
次　第	1　あいさつ 2　議題 （1）各種指標について【資料 1、資料 2】 （2）総合計画の見直しに係る市民アンケート結果について【資料 3】

会　議　録	
委員名	質　問　・　意　見
1　あいさつ	
事務局（次長）	それでは第 2 回みよし市総合計画審議会を始めさせていただきます。まず欠席の連絡をいただいております委員を報告させていただきます。青年会議所代表の鈴木委員、農業委員会代表の小野田委員、公募委員の加藤委員につきましては、今日は欠席という連絡をいただいておりますので、連絡をさせていただきます。 それでは会議に先立ちまして、市長よりご挨拶を申し上げます。
小野田市長	大変ご多忙の折、第 2 回みよし市総合計画審議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は昨年の 12 月 8 日に就任しました小野田と申します。 私の市政運営のキーワードは、みよし市総合計画を基に皆で築き上げる成熟したまち・みよしを掲げ、明るく住みやすい元気なまちづくりの実現を目指しています。 平成 22 年度に策定しました総合計画は本市の土台であり、身体で言いましたら、まさに心臓と脳ではないかと思っています。この計画が計画期間の中間年を迎えることから、現在までの計画の進捗状況を分析・評価し、今年度と来年度の 2 か年で基本計画の見直しを行うものでございます。 選挙にあたって、みよし市総合計画の理念、施策の継承と市民目線での改善・発展ということを訴えて参りましたので、是非委員の皆様には忌憚のないご意見をいただき、今後のみよし市のまちづくりの基本指針となるにふさわしい計画となるようご審議をお願いします。
事務局（次長）	続きまして、会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

堀田会長	皆様おはようございます。第 1 回の会議で、この会長に選任していただきました東海学園大学の堀田でございます。ただ今、市長からお話がありましたように、このみよし市の土台、脳になる計画ということで、第 1 回会議ではこの市民の皆様からアンケートをとることについて審議しまして、それをまとめたものが今日は出ております。これを基にして、今日は活発にご意見を出していただきまして、そして市長のご期待に応えるような道標を出していくよう精一杯頑張ってやっていきたいと、私も微力ながら務めて参りたいと思いますのでよろしくお願いします。
事務局（次長）	それでは議題の審議に移りますが、審議会条例の第 4 条 2 項の規定によりまして、会長が審議会の進行を進めるということになっておりますので、会長、よろしくお願いいたします。
堀田会長	それでは座ったまま進行させていただきたいと思います。限られた時間の中でございますが、委員の皆様に十分議論をしていただき、またご協力いただきたいと思っております。 それでは最初に各種資料につきまして、事務局よりご説明いただきたいと思います。
議題　（1）各種指標について	
堀田会長	それでは今の説明につきまして、何かご不明な点、あるいはご質問等ございましたら挙手をお願いします。
鳥居委員	5 ページに「(3) 特殊要因としての今後の開発動向」ということで、平成 26 年度云々と書いてあるわけですが、1 つお聞きしたいのは、愛知大学の跡地の動向についてどこまで進んでいて、今後人口増に繋がっていくのでしょうか。愛知大学の跡地について、今どのような形で進んでいるのかをお聞きします。
事務局（課長）	今のご質問の中で、特殊要因として数字は、愛知大学に関して入れておりません。入れていない理由につきましては、今回平成 30 年までの人口を推計しておりますが、30 年までには入居が難しいだろうという判断で、今回はこの推計値には入れておりません。
事務局（部長）	新聞紙上で皆様よくご承知のとおり、トヨタホームがスマートタウンを計画したいということで、その事業にあたっては、市街化調整区域であり、今のままでは住宅が建てられない状態の物件でありますので、それを地区計画制度に従って、地域の皆様が本当にこういった素晴らしい開発をやりたいという、まちづくり協議会の総意をもって事業が進められていくわけです。そこで問題となったのは、一団の土地を開発する場合においては、学校であればその校舎やグラウンドの配置計画の中で緑を残しながら、そこで校舎とグラウンドや広場など、様々な形で整備をするのですが、住宅地開発になると一団の土地を全て住宅系でまとめていかなければならない中で、現地ではちょうど中央部に保安林がございまして、その保安林を残した形で現在の大学はございます。その保安林を解除するにあたっては、やはり住宅系の開発でありますと、はっきり言って至難なところがございます。絶対駄目だということは無いのですが、林野庁と協議して整備していくには、まだ 4、5 年はかかるであろうという行政判断をさせていただきました。この計画自体が向こう 4 年間の推移をみる形であるわけですので、今課長が申し上げました通り、今回の人口の開発整備指標における推移には加算をしなかったという判断であります。
鳥居委員	大体わかりましたが、市民の 1 人として、32 平方キロメートルしかない我がまちの大開発の中で非常に心配しているのが、愛知大学の跡地だと思っております。今後どういう形で進めていくのか、様々なご意見を聞いて進めることが良いと思い質問しました。

村上委員	1つお聞きしたいのですが、資料1の2ページの人口フレームについて、きちんとおさえることが総合計画で一番大変なことだと思うのですが、前回の推計値が平成30年に人口が65,900人であり、これが今回の推計ではその差3,900人ということです。この推計というのは当然誤差があると思うのですが、この3,900人という差は決して小さくないと思います。どうして思ったより増えなかったのか、その要因をお聞かせください。 それから、前回の結果を踏まえてどういったところを留意しながら推計の見直しをしたのかということ、この2点をお聞かせ願いたいと思います。
事務局（課長）	資料1の6ページに前回推計と手法の方法の比較の資料をつけております。前回は平成16年から21年のそれぞれの人口の差に加えて、平成元年と平成6年、平成6年と平成11年、平成11年と平成16年という、特に人口がみよし市で大きく伸びた時期の移動率から出生率などを使っておりました。 2ページの表を見ていただきますと、平成17年から平成20年というのは、この人口増加の傾きがかなり急になっております。この頃の転入、転出の状況や人口構造の状況の数値を使って推計をしている関係で、かなりの傾きで推計をすることになっております。 今回は平成25年を基本としまして、平成20年のデータ、ここの実績のところを見ていただきますとかなり傾きが緩やかになっています。この人口の増加の状態を使って推計をしているので、このように差が出ております。
堀田会長	他にいかがでしょうか。
三宅委員	推計の方法というのはどのようにしておられるのですか。
事務局（課長）	具体的な方法としましては、平成25年の人口、住民基本台帳の年齢別人口などをまず把握いたします。それと平成20年の状況を把握いたしまして、その間の自然増、出生と死亡の率の差、それから転入と転出の差などを数値化して、それぞれ上昇率を掛けて、5年毎、10年毎と順番に掛けていくことによって、人口が順番に増えていきます。 0歳から5歳については、当然前の資料が無いものですから、そこは16歳から49歳の女性が子どもを産む率を人口問題研究所の数値を使って、順番に生まれてくるということで0歳児の人数が出る、その人が1年後には1歳になる、2歳になるという数値を計算して出た数字を分かりやすく書いたものが7ページから8ページの表です。実際は、この裏にもう少し大きな係数を掛けた表がありますが、そのようにコーホート要因法を使って計算しております。
三宅委員	一般論ですが、役所の推計は大きめに見積もっているようです。これからトヨタ自動車もどうなるか分からないことですし、恐らく海外に出ていくこともあると思います。そうすると、こういう計画はある程度厳しめにしておかないと、結局、無駄なものを作ってしまうことを心配しています。
事務局（部長）	今、三宅委員から言われた通り、全国レベルで右肩上がりの総合計画は組まないというのが傾向であり、私どももその潮流にのっていかないといけないというのは重々承知しているわけですが、今課長が説明しました通り、やはりリーマンショック以前の計画は、確かに誰も想像していなかったというようなことで過大なところがありました。そういう中で、最初に申し上げました通り、全国で5%の自治体は、右肩上がりなところも出てし

事務局（部長）	まうというところで、本市もその自治体の一部です。三宅委員の言われるように過大に考えてはいけない。現実を見つめながらトレンドに、かつ、必ず起きるであろう開発整備指標を加えた中で、従来は年 1,000 人増のイメージを出していたのですが、年 500 人増というトレンドと、開発指標の整備の実現、現実の中で今回は整理をさせていただいたということです。
三宅委員	やはり、コーホートの指標の社会的移動の方は、我々はよく考えなければいけないと思います。それから、人口については女性が仕事をするから共働きになって、子どもについても合計特殊出生率が落ちてしまうから、そういうことが起こらないように託児所をつくるとか、安倍首相も「何年も女性たちが子育てに専念できるように休みをとる、育児休暇を沢山とるといい」と言っていますが、私は大反対です。働ける人はすぐ働けるようにしなければいけないと思う。数年経ったら職場に戻っても何もわからなくなってしまいます。だから、できるだけ早くに職場復帰できるような体制をみよし市で作ることによって、コーホートの指標というのは上向きになると思います。それは総合計画の方でやった方が良いと思います。
事務局（部長）	それは次回から議論させていただきます。
伊豆原委員	将来、人口が増えるという想定をされているまちは結構あるわけですが、1 つは合計特殊出生率だとか、人口問題研究所が上位推計と中位推計と下位推計の 3 つを持っています。今回はそういう推計の仕方をされたのでしょうか、これは一つしかないということでしょうか。要は、計画論的に言えば、この数値というのはベースになると言いながら、先程の三宅委員のお話ではありませんが、結果 62,000 人というだけの話になってしまう可能性があります。だから、要はここの計画を作るうえでは、どこをターゲットとするのか。言わば、どういう状況を想定していくとこういう風になるのか。逆に言うと、こういう状況を想定するとここまで落ちてしまうとか、そういう計画的な話をしていかないと、この 62,000 人がどうこうという議論をしていてもなかなか上手くいかないのではないかという気がします。 我が国の人口が減っていくという話は元々あるのですが、それを減らさないようにするならどうするのかという話にしないと、計画論にならないと思います。だから、今のここのところが良いか悪いかという話よりも、どの辺りをターゲットにするべきかという議論をしないとまずいのではないかという気がします。その辺りはどうですか。上位推計とかそういう数値は持ってなかったということでしょうか。
事務局（課長）	ご指摘いただきました通り、人口問題研究所は 3 種類の推計を持っています。今回の推計は中位推計を使って計算をして、短期間、5 年後を見るということもありまして、この推計の仕方に忠実に、数字を膨らますことなく推計をさせていただいております。 ただ先程ご説明いたしました特殊要因につきましては、建築可能な戸数や、現在まだ建っていない戸数を計算し、そこから人口を算出しておりますので、その分についてはこの方法とは別の方法になります。その他の数値につきましては、転入・転出や出生率の状況等は公表されている数字を現在のみよし市の状況に当てはめて計算しております。
伊豆原委員	問題はこの 4 年間、5 年間の短期推計とするならば、逆に言えば区画整理やそういう地域開発をした時に、いかにそこを埋めるかという政策論がついてこなければ意味がありま

伊豆原委員	せん。ただ 715 人が先にあって、この数字が先ですと言われてしまうと、逆に政策論がこれに基づいてという話になってしまいます。本来ならば計画としての目標値はこれで良いと思うのですね、近郊の人が来ていただけるような魅力あるまちにするには、これぐらいのことをしないと 715 人は埋まらないとか、ひょっとしたら魅力あるところだったら、1,000 人以上を見込めるかなど、そういう議論にしていかないといけないと私は思います。
堀田会長	今色々と将来人口推計について活発にご意見を出していただきました。この件に関しては他にはよろしいでしょうか。
天石委員	これは今後のお願いなのですが、資料 1 の 7 ページを見ますと、人口推定結果は 4 地域に分かれています。要するに、三好丘地域を独立させて、4 地域に分かれています。それで総合計画の資料 2 の方を見ますと、1 ページ目の表は 3 地域になっています。それはみなよし、なかよし、きたよしとなっていますが、今日の話ではなくて今後総合計画の地域毎の政策を決める時に、このみなよし、なかよし、きたよしでずっとやっていくのか。この区分がこれで良いのでしょうか。人口のばらつきも随分違います。6,500 人から 32,000 人のところもあります。みなよし、なかよし、きたよしの 3 地域が定着しているのですが、それで良いのかどうか。既に 7 ページでは 4 地域に分けて分類しています。総合計画の地域別の行動指針やそういうものを立案するときに、地域別の区割りがそれで良いのかどうかというようなことも含めてご検討いただきたいと思います。
事務局（部長）	今の天石委員のお話は、まず経緯からあると思います。このまちの発展は明治 39 年の村の独立から話をさせていただくと、3 つの村が仲良くなりましょうということで、それから北部、中部、南部というものが生まれて、第 5 次総合計画の平成 10 年の時には北部、中部、南部という呼び方は止めましょうとなりました。北部、中部、南部のみんな仲良くだから「きたよし」、「なかよし」、「みなよし」という名称変更から始まりました。そして、平成元年から三好丘のまちづくりがなされてきて、四半世紀近くになって、三好丘というのは、天石委員が言われるように 6 ページ、7 ページにある子どもの割合や高齢者の割合、特殊要因がきたよしの枠とは少し違うところがあります。そういった違うところがあるため、第 5 次総合計画から今回の市の計画の中には、その新市街地の熟成の度合いを別途見るべきではないかというところがあったため、議論の過程の中ではきたよしの中の新市街地として形づくられているものも、1 つ計画論の中で分析しながら計画していこうということであります。きたよし、なかよし、みなよしという 3 つの基本精神は変えていきたくありませんが、分析や計画は新市街地というものも視点に入れながら、今後どう整備するかというような計画づくりをしていきたいと思います。
堀田会長	他はよろしいでしょうか。それではこの議論は終わりまして次に移りたいと思います。 総合計画の見直しに係る市民アンケート結果について、事務局よりご説明をお願いします。
議題　（2）総合計画の見直しに係る市民アンケート結果について	
堀田会長	今のアンケート結果の説明について、何かご不明な点、あるいはご質問等ございましたら挙手をお願いします。
三宅委員	これはいつも言われていることですが、9 ページの住み続けたくない理由のところで、きたよしも、なかよしも、みなよしも皆交通機関が悪いと言われています。福祉バスも出

三宅委員	していますが、それでもバスの時間が市役所から駅まで 50 分かかるなど、色々問題にされています。市北部の一部の人は電車が続いていますから、東西に行くにも、名古屋に行くにも非常に便が良い。そういうところは高齢化されても良いですが、他のところはずっとこういう傾向が続くというのは何とかしないといけないと思います。やはり住むためには、様々な整備が必要だと思いますので、そこの所はどう考えていらっしゃいますか。
事務局（部長）	この問題は未来永劫に片付かないと思います。改善はしていけると思いますが、かつて総合計画の中でもこの問題をいつも指摘されるのは、経済軸が東西軸ですから、名古屋－豊田間に結論的には電車という話題しかありませんでした。例えば、過去の議論の中では赤池から 153 号バイパスを活用してモノレール計画を組んだらどうか、それから南部の方には地下鉄 6 号別線を三河豊田まで持っていったらどうかという論理というのは夢の中では生まれてくるのですが、ただ現実はそこで需要の喚起があります。喚起を考えた場合、周辺を全て開発しなければいけないという経済理論が生まれてきます。そして、現在人口減少化の中でそういったバブル的な発想ができるのか。結論的には儲かれば良いですが、儲からない、できないということになりますと、基本的には本市の南北の交流軸はいわゆる基幹交通と言うのでしょうか。それなら道路を広げれば良いのですが、道路を広げるというのは生活圏の中ではなかなか難しいです。そうした中で、抜本的な解消ができないものですから、改善しかありません。改善の中で、今、公共交通の中で南北軸に福祉バス系のさんさんバスを導入していますが、これをもう少し改善して地域の皆様に利用していただきたい。本市は、他所の福祉バス系よりも割と利用率は良いと思います。どちらかというと自慢できるのですが、さらに充実していくというような方策がこれに対するフォローではないかと考えております。
伊豆原委員	このまちも公共交通に対しての満足度というのは非常に低いです。重要度は高いですが。しかし、実際にどれだけのサービスをしたら皆様にご利用いただけるかということですが、かなりのサービスをしても実際にはお使いいただけない。意識の中での評価と、実際の自分たちの移動の行動に移ったときに実際にそれができるかという話とは少し違うような感じがします。ですから、今部長が言われたのですが、サービスのターゲットをどこに置くかというあたりと、投資額をどうするかという問題の両方を提示しながら市民の皆様にお考えいただかないといけません。単純にこの満足度、重要度という形で聞いてしまうと、必ずこういう答えになってしまいます。そこに私たちもかなりジレンマを持っています。具体的にこれからやっていくうえでは、やはり少しずつでも改善の方向にいくことだと思います。利用になられる度合いというのは、周辺市町村に比べて随分ご利用の量が多いですね。結構モデルとしても取り上げられていますから、随分努力していただいているのですが、やはり結果として、市民の皆様はこうおっしゃっているということから、具体的なサービスをどうするのかについては、これからやっていかなければいけない課題だと思います。
阿部副会長	今色々とご意見を述べていただいた通りだと基本的には思うのですが、私が少し気になるのは、「電車やバス」と 2 つ入っているところです。回答する方は全部電車に反応して答えるのではないでしょうか。電車とバスはそれぞれ 1 つの項目でお尋ねしたら良かったのではないでしょうか。バスになると違うのではないかと思います。今言われたように、

阿部副会長	コミュニティバスについて、市は結構丁寧なサービスを提供していると思います。電車が入るともう問答無用みたいな答えがあるのではないかと思います。
事務局（部長）	ごもっともでございます。一般の市民の方はやはりバスより電車に心がいくようです。
伊豆原委員	行動として市内を移動される発想をしておられるのか、阿部副会長が今おっしゃったように外への行動を想定されているのかによっても随分違います。
事務局（部長）	一般的に、福祉バスという計画は分かりやすく言うと、市民の皆様で交通の不便な弱者の方々に提供しているというような関係があり、大体市民 1 人 1,000 円ぐらいを負担していただくとそのまちの大体 1%のそういった人たちが利用していただけるというのが、大体全国の平均です。しかし、本市は大体 1,000 円負担してもらうと 1.5 人ぐらい、5 割増しぐらいの人が現実利用していただいているわけですから、形としては先進地でしょうか。他に視察を受けられるような状況のやり方はしているのですが、市民の皆様はそれで満足していただけることは無く、苦情もあります。しかし、まだ改善の余地もあるだろうということで、これも今後議論を進めていくという状況です。
堀田会長	ありがとうございます。今公共交通、非常に関心の高いところを色々とご意見をいただきました。確かに、今の電車、バスが 1 つになっていると、電車が頭に浮かぶということは、阿部委員がおっしゃった通りだろうと思いました。 このアンケートについて他にご意見やご質問がありましたらいかがでしょうか。
高橋委員	16 ページですが、この満足度指数・重要度指数に「どちらかというと満足」66.7、「どちらかといえば不満」33.3 と合わせて 100 に按分されていると思うのですが、このウエイトの置き方によってはＡＢＣＤのクラスターが各項目でかなり違ってくる可能性があると思われます。この 66.7 や 33.3 とウエイトを置かれた合理性というのをどう判断したのかをお聞かせください。
事務局（課長）	5 段階評価なり 4 段階評価なりの順位付けで 1、2、3、4、5 でも良かったのですが、今回はこのような指数を採用したということで、重要度については「ふつう」という重要度は設けなかったものですから、50 というのが無いのですが、どちらかにシフトをするように重要度に「ふつう」は設けませんでした。だから単純に満足に 5 点、4 点、3 点と結果的にはそれほど変わらない数字と考えております。
阿部副会長	16 ページから 17 ページに非常に興味深い結果が出ていると思ったのですが、17 ページの方から重要度の順番の高いものが大体、医療、交通安全、防災拠点と暮らしに関する重要度が高くなっており、それが基本的に満足度もそう低くありません。だから、16 ページのＢのところが障害者福祉、高齢者福祉、子育て支援、医療救急体制というのは、基本的に重要度が高いとみなして満足度も高いという評価が出ていて、素晴らしいことだと感心しています。大筋はそういう解釈ができるのではないかと思います。公共交通は少し違いますが、良いのではないかと思って見ています。繰り返しますと、市民の方は、暮らしに関して重要度が高いと同時にかなり満足している結果ではないかという風に拝見しています。
堀田会長	阿部委員からこうした評価をいただきましたが、何かこれについてよろしいですか。

事務局（部長）	それに甘んずることなく頑張りたいと思います。
伊豆原委員	アンケートの結果ですから、その時の社会情勢やそういうものにかなり影響されることが多いだろうと思います。1 つだけ気になったのが、社会情勢やそういうものは仕方ないですが、平成 25 年の高齢化率は 15%弱ですよね。アンケートの数値を見ると実は 65 歳以上の方と、65 歳以下の方の数を見て、対象が 20 歳以上ですからあまり細かくは見られませんが、アンケートの回収数全体における 65 歳以上の方のウエイトが少し高いように感じます。また、性別でいくと女性の方が 6 割ということになると、満足度という話とは別にあるのでしょうが、集計結果をそのままということで良いのでしょうか。これをどう見るかによってかなり変わる可能性もあります。言い換えれば、若い方がアンケートに答えてくれていない部分がかなり多いため、どうしてもそこの意見が低くなっています。これからこの計画は 4 年か 5 年の話なので、それはそれなりに良いと思いますが、まちの将来、市の将来ということを考えていくとなると、若い方のご意見のウエイトが低くなってしまうことに対して、私は気になります。20 年後とは言いませんが、10 年後のことを想定していこうとするとまちづくりというのはそういう方が中心になっていくわけです。その人たちの意見のウエイトが低くなってしまうことを、少し危惧しているところなのですが、その辺りについて何かお考えがあったら教えてください。
事務局（部長）	伊豆原委員のご指摘の通り、選挙でもそうですが、こういうアンケートを行うと若い人はなかなか協力していただけない側面があります。過去にも若者を中心に様々な調査を行ったことは記憶にはあるのですが、そういったものの傾向からいくと、やはり遊ぶところ、憩うところや働く場所などの魅力、まちに魅力を付けてほしいという観点のものが多くあります。アンケートには無いのですが、その魅力化というのは今後の重要な議論であると解釈しておりますので、これはアンケートとは別に追及してみたいと思います。
三宅委員	買い物、利便性のことがトップに挙がっています。
事務局（部長）	買い物の利便性からしますと、かつて、本市の小売業の商品販売額は 200 億ぐらいだったのですが、それが政策的にまちづくりの拠点づくりということで、アイ・モール三好を第 3 セクターで、行政が投資した中で作り、区画整理の中ではベイシア等に色々入っていただき、今では 3 倍の 600 億まで達しました。だから、買い物の便が悪いと言われると我々は何が悪いのかと思ってしまいます。ここで言っているのは「外食するところがない」ということではないかと私は解釈しています。買い物に関しては近隣市町から「みよし市にうちの客が取られてしまう」と言われる中で、市民の皆さんから「買い物が不便だ」と言われると、どう答えれば良いのか。やはり外食の部分なのだろうということはあります。魅力ある飲食店と言いますか、そういったものが今後できてくればというようなイメージを、これを見て思いました。

新谷委員	16 ページから 17 ページについて感じたことですが、ＡＢＣＤに対して今後市がどんな施策で向き合っていくかということまで付け加えられたので、少しドキッとしました。ＡとＤはどちらかと言うとハード的なものが多く、ソフト的な人と関わるようなものがＢとＣというところに出てきていると思いました。やはり市民感覚ですと、どうしても分かりやすさというのはソフト的に自分が感じているものに対しての評価が多くなると思うので、そこは細やかに出ると思います。ＡやＤのようなハード的なものに関しては、直接自分の利害が発生しない限りはなかなか意見として具体的にならないような感じがします。ただ、前の方の人口推計等を見ても、30 年になるとその高齢者世帯というのが単身と高齢夫婦を含めると 3 割を超えるとか、外国人の人口も微増ではありますが増えていくというところでは、外国籍の子どもの教育というものも決して小さな問題ではないと思います。アンケート結果というのはもちろん重要ですし、市民感覚は意外と良いところを突いていると思うのですが、それはベースにしつつも、今の社会の中に起きている課題をこの委員会の中できちんと審議をして、付け加える課題なり施策なりを検討していただけたら良いと思います。
堀田会長	今貴重な意見が出ました。これについては特に回答なしで、よろしいですね。 皆様方からこの市民アンケートについて非常に活発に、評価あるいはご意見等いただきました。これをこのアンケートにもう 1 度よく入れて、今後の検討に備えていきたいと思います。 本日、事務局から準備されております議題は以上でございますが、全体を通しまして何かご不明な点、あるいはご質問等がございましたら挙手をいただきたいと思いますが、皆様方よろしいでしょうか。
全委員；意見なし	
堀田会長	それでは事務局に進行をお返しします。
（事務局連絡事項）	
事務局（課長）	来年度につきましては、総合計画書の 60 ページから、各論に入っていきたいと考えております。60 ページから 175 ページまでを改訂するのが今回の目標でありますので、これをそれぞれ内部で基礎数値、現状と課題、目標指標などを検討いたします。
事務局（次長）	長時間にわたりご審議ありがとうございます。最初に連絡すべきでしたが、今回の審議会から策定本部の会議員であります部長級の職員が参加させていただいておりますので、よろしくお願いします。 次回の審議会は来年度の 7 月頃を予定しております。また改めまして連絡をさせていただきますのでよろしくお願いします。これをもちまして第 2 回審議会を閉会します。